

## 琵琶湖沿岸及び伊庭内湖におけるホンモロコの産卵状況

亀甲武志・三枝 仁・根本守仁

### 1. 研究目的

これまでに、琵琶湖北湖の主要な産卵場においてホンモロコの産卵状況を調査し、5月中旬から6月中旬の人為的な水位低下が生残する卵の割合を低下させることを明らかにした。今年度は琵琶湖沿岸の2地点とホンモロコ資源が回復傾向にある伊庭内湖の、合計3地点でホンモロコの産卵状況を調査した。

### 2. 研究方法

大津市小野、湖北町海老江、東近江市伊庭内湖の3カ所において（湖岸距離約20～100m）のヨシ・ヤナギ帯において4月から7月までおよそ週に1回の頻度で前年と同様の方法によりホンモロコの産卵状況を調査した。干出の評価は、調査日から7日後まで水面上にあった卵を干出・死亡卵、調査日から7日後まで水面上にも水面下にもあった卵を干出・生残不明卵、調査日から7日後まで水面下にあった卵を生残した卵とした。

### 3. 研究結果

産着卵は4月3日から6月30日まで確認された（図1～図3）。産卵のピークは場所によって違いがあり、伊庭内湖、大津市小野、湖北町海老江の順に遅くなった。琵琶湖水位は4月中旬から5月中旬までは0cmから+10cmと推移したが、5月中旬から6月中旬まで徐々に低下していった。水位が低下する5月中旬から6月中旬がもっとも干出・死亡卵の割合が多いことから、水位低下の影響を強く受けていると考えられた（図4）。このため、ホンモロコの産卵期間中はできるだけ水位を維持する必要があると考えられた。

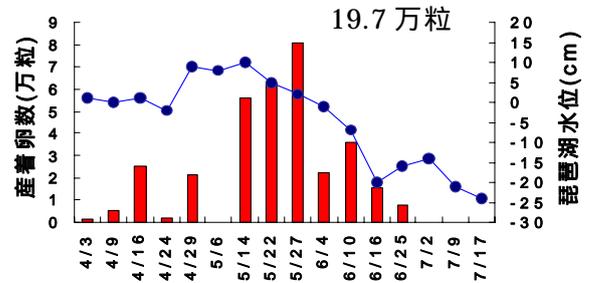


図1 大津市小野における産着卵数の推移

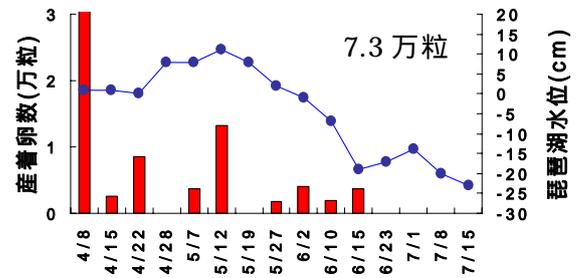


図2 伊庭内湖における産着卵数の推移

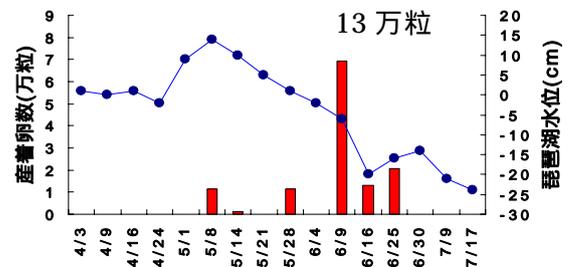


図3 湖北町海老江における産着卵数の推移

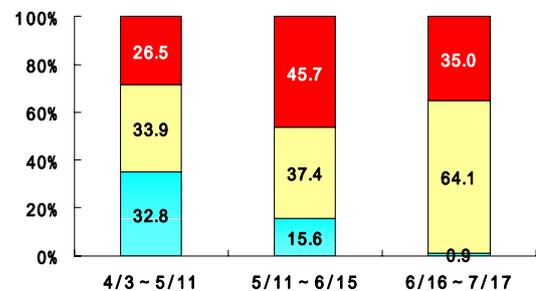


図4 時期ごとの産着卵の干出状況

■ 生残卵 ■ 生死不明卵 ■ 干出・死亡卵